

## ハナニラ・・・



メキシコ・アルゼンチン原産のハナニラは明治の頃に観賞用として輸入され、今では帰化植物と呼ばれる程繁殖しています。鱗茎から春に広線形の葉を出し、葉の間から10～20センチの花茎を伸ばします。内花被、外花被ともに3枚の星型の花を花茎の先端にひとつつけます。

葉にはニラやネギのような匂いがあり、このことからハナニラの名がつけました。野菜のニラとは同じユリ科の植物ですが、属が違うのであまり近縁とは言えません。それに、本種をニラのように食べても特に害はないそうですが、かなりの不味らしいので勧められません。なお、葉の匂いからは想像しにくいのですが、花には甘い芳香があります。

そういえば、「広辞苑」などではヒガンバナ科として紹介されていますが、ユリ科を採用している図鑑の方が圧倒的に多いようです。

ちなみに、ユリ科とヒガンバナ科の区別は子房と花被・おしべとの位置関係で付けられます。子房が花被やおしべより上にある場合ならユリ科、逆に、下にある場合ならヒガンバナ科です。観察したところ、子房が上についていました。

また、学名の「TRISTAGMA (トリスタグマ)」は、ギリシア語の「stagma」が滴り落ちるもの（例えば、蜜のようなもの）の意味で、子房に3つの蜜腺の孔があることに由来します。春を過ぎると姿を消しますが、多年生植物なので、毎春花を見ることができます。耐寒性があり、 $-10^{\circ}\text{C}$ くらいまで耐えることが出来、あちこちで雑草化しているといっても過言ではないでしょう。